

市立

1993年（平成5年）4月1日発行

市川自然博物館

4・5月号

（通巻第25号）

だより

やさしい

分類学 1

貝類



▲ ソトオリガイ（二枚貝）を襲って食べるアカニシ（巻き貝）

やさしい 分類学 1 貝類

海で見つけた色とりどりの貝殻を箱の中にしまっておく——この博物学の原点ともいえる経験を持つ人は多いと思います。それなのに、貝の図鑑を手元に置くようになる人は、植物や鳥にくらべて多くありません。貝は、いざ見分けようとする、どれもこれも似ていて区別がつきにくい動物です。貝を見分けるポイントを紹介します。

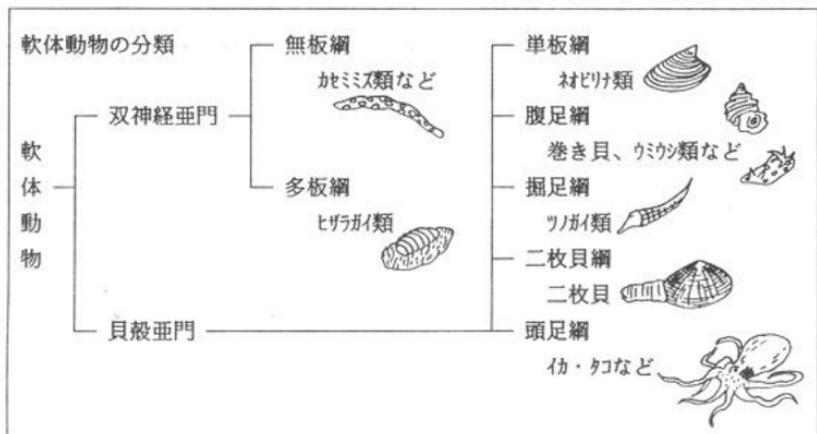
貝には、巻き貝と二枚貝がある

貝は、硬く頑丈な殻を背負った柔らかな体の動物です。螺旋形の殻をもつ巻き貝と、2枚の殻が左右に対になっている二枚貝とに分かれます。

このうち、二枚貝は特殊化が進んだグループで、二枚貝だけで二枚貝綱というひとつの大きなまとまりをつくっています。一方、巻き貝も腹足綱というグループをつくっていますが、腹足綱の中にはウミウシ類やアメフラシ類のように貝殻を持たないものも含まれています。

軟体動物を代表する貝、一部は陸上へ

貝は、軟体動物という動物の大きなグループに属します。軟体動物は5万~10万種類が属する多様なグループで、海中で、もっとも繁栄しています。その中で一般によく知られているのは、貝とイカ・タコ類です。インギンチャク類やクラゲ類は、体が柔らかくても軟体動物には属しません。軟体動物のうちで、陸上への進出に成功したのはわずかで、それが、カタツムリ類などの一部の巻き貝です。これらは鰓の代わりに肺を持っています。



色や模様にはばかり



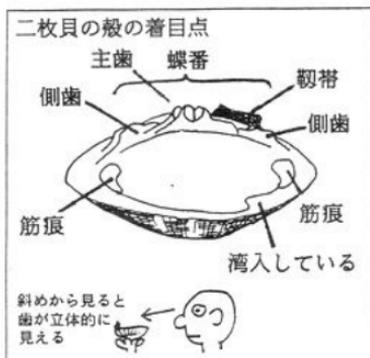
気をとられてはいけない貝の分類

二枚貝は、殻の内側に着目する

魚屋さんの店先で、シジミとアサリとハマグリを見分けることは簡単です。大きさや色や模様の特徴が、なんとなくわかっているからです。しかし、凶鑑で二枚貝のページを繰っていくと、アサリを見つけることさえ困難なことがわかります。似た外見の種類が次々に出てきます。

二枚貝を見分けるポイントは、外見よりも殻の内側にあります。それは、2枚の殻をつなぐ蝶番（ちょうがい）の部分と、殻の内側にある模様（筋肉が付いていた痕）です。このうち蝶番の部分では、特に噛み合わせの歯と、殻どうしをつなぐ膜状の韧带（じたい）に注意します。殻

の内側の模様では、貝柱が付いていた丸い痕と、殻の外周に沿ってある線の湾入に注意します。

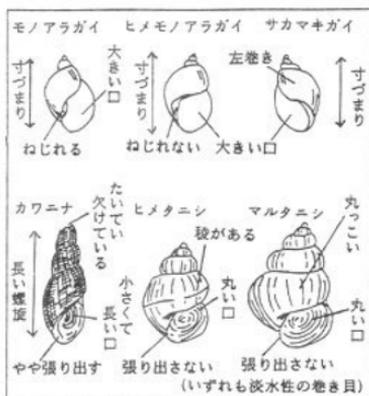


<p>アサリ 3本の主歯</p> <p>側歯なし</p> <p>韧带</p> <p>ほぼ同形同大</p> <p>湾入する</p>	<p>シオフキガイ</p> <p>小さい「へ」字形の主歯</p> <p>大きい側歯</p> <p>大きい側歯</p> <p>韧带を受けるくぼみ</p> <p>異なる</p> <p>湾入する</p>	<p>マシジミ 3本の主歯</p> <p>韧带</p> <p>ギザギザのある長い側歯</p> <p>同形同大</p> <p>湾入しない</p>
<p>ハマグリ 3本の主歯</p> <p>韧带</p> <p>側歯は片側のみ</p> <p>ほぼ同形同大</p> <p>浅く湾入</p>	<p>バカガイ</p> <p>小さい「へ」字形の主歯</p> <p>大きい側歯</p> <p>大きい側歯</p> <p>韧带を受けるくぼみ</p> <p>異なる</p> <p>湾入する</p>	<p>サルボウガイ</p> <p>小さな歯がたくさん並ぶ</p> <p>異なる</p> <p>湾入しない</p>

巻き貝は口の形と殻の螺旋に着目する

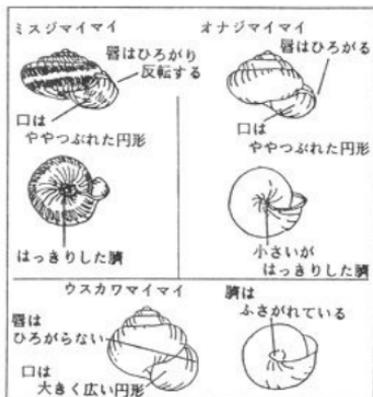
巻き貝を見分ける重要なポイントのひとつは、殻の口です。口の形が、円形か、楕円形に近いか、もし楕円形なら上下に長いか、左右に長いか、などに注意します。切れ込みの有無なども重要です。また、口のまわり、唇にあたる部分の厚さや、反り返っているか、ねじれているかなども見ます。

もうひとつのポイントは、螺旋の巻き方です。さらに、螺旋に巻いた殻のふくらみや、殻の表面の凸凹も見分けるポイントとなります。



カタツムリの場合

一般にカタツムリと呼ばれるマイマイ類は、陸上に進出した巻き貝としては、もっともよく知られています。見分けるポイントは水中の巻き貝と大差ありませんが、地域的な変異がとて多く、図鑑を前にして唸ってしまうことが、たびたびあります。市川近辺で見える場合は、口の形や、ひっくり返した時の螺旋の中心一臍(へそ)にあたる部分一に着目します。殻の模様も手がかりになります。また、陸産の巻き貝としては、縦に長いキセルガイ類などもあります。



図鑑を見る場合に...

鳥や植物に比べると、貝類の図鑑は、あまり多く出版されていません。しかも、これ1冊あればOKというお薦めの図鑑も、残念ながらありません。多くの図鑑は殻の形や色、模様が中心で、ここで紹介した二枚貝の殻番や筋痕、巻き貝の口

の形や螺旋の巻き方などについて、図で細かく説明されていません。しかし、それらについては、たいい文章で解説されています。ですから、図や写真ばかりに目を向けるのではなく、頑張って解説文を読むようにすることが大切です。



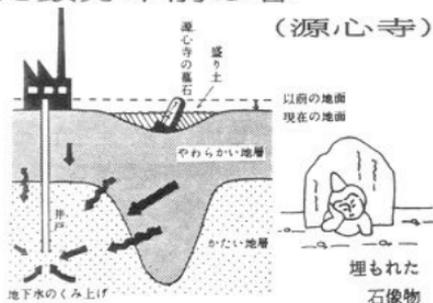
街かど自然探訪

おじゃます!

かんどり 香取・地下に埋もれた数万年前の谷

源心寺の墓地では、なかば埋もれてしまった奇妙な墓石が見られます。これらは、かつて、この一帯で多発した工業用地下水の汲み上げによる地盤沈下によって地面とともに沈下し、埋め戻しの時もそのまま直されなかった墓石です。

源心寺付近は、一帯でも特に激しく地盤が沈下しました。それは、この地下に大昔の谷が走っているからです。谷のくぼんでいるぶん、他の場所よりも軟弱な土が厚いのです。この谷には、今から2～3万年も昔に川が流れていました。



●地盤沈下のしくみ

地下水の汲み上げによってやわらかい地層が収縮するためにおこる

(「日曜の地学19千葉の自然をたずねて」築地書館より)

行徳野鳥観察舎 だより

ツリスガラ

「ツリスガラがさえずってたよ」3月8日のこと。アシ原に踏み込んだが会えずじまい。

ツリスガラは、スズメの半分くらいの小柄な鳥。かつては九州地方にしかいなかったが、徐々に東へひろがり、大阪あたりではふつうに越冬するようになった。数年前に浦安で初認されて以来、保護区内でも毎年北池のアシ原で標識調査時に観察や捕獲の記録がある。関東でも冬鳥として定着してきたらしい。

来所されたドイツの方の話では、ヨーロッパでもツリスガラの繁殖地がイタリ



文と絵・
蓮尾純子

アあたりからひろがってドイツにまで達したとのこと。「家の近くで4年前に初めて繁殖したのを僕が発見したんだ」洋の東西を問わず、分布が拡大しているのはなんともふしぎな現象だ。

(行徳野鳥観察舎 0473-97-9046)

いちかわの 野生生物

ホンドイタチ

(*Mustela sibirica itatsi*)

ホンドイタチは市川に棲む唯一の肉食獣です。特に水辺を好み、近くに水田や湿地のある林や、川の周辺の草地などで暮らしています。最近では、大町自然観察園で親子のイタチがたびたび観察されているほか、田園風景の残る、柏井、奉免、北方町、北国分町など江戸川の河川敷などで目撃されています。野ネズミ類が主な餌ですが、カエルやザリガニ、小魚、昆虫なども食べる

ようです。主に夜間行動し、とても用心深く、たいへん敏捷なため、足跡や糞等の生活の痕跡こんせき以外はなかなか観察できません。足跡はイヌやネコに比べずっと小さくて、前肢、後肢とも5本の指がはっきりしているのが特徴です。足跡をたどっていくと時折、石の上などの目立つところらせんじょうに糞を見つかることができます。黒くて、太さ0.5~0.8cm長さ3~5cmで螺旋状にねじれ、たいいて一方の先がとがっています。大変に臭いが強く、行動の範囲を示すマーキングの効果があるようです。



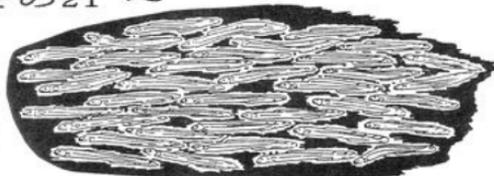
むかしの市川 ~ その21 ~

メソッコ

昔は、江戸川にメソッコがたくさいました。メソッコとはウナギの幼魚のことです。メソッコにも成魚に近い小指ぐらいの太さのものから、爪楊枝をすこし太くした程度のもので、すべてメソッコとよんでいました。かば焼きにするような太いウナギは、子供には釣れません。釣れるのは、皆メソッコです。

日本のウナギの産卵場所は、まだよくわかっていませんが、北緯30度以南の太平洋だと言われています。

中学生の頃でした。魚釣りをしようと江戸川の岸に立って川面を見おろすと、50cm位の幅で帯状に長く水の色が変わっ



ているのです。何かとよく見ると、それは、太さ3mm位、長さ6~7cm位の小さなメソッコが、何千、何万と帯状に集団を作って、川をさかのぼっているのです。東京湾からのぼってきたウナギの幼魚なのです。からだをくねらせながら、ただひたすらに上流に向かって泳いでいる姿に、はるか南の太平洋から、よくぞやってきたものだ、と、しばし我を忘れて見入ってしまいました。

(博物館指導員 大野景徳記)

観察ノート

◆大町自然観察園より

- ・ミヤマホオジロが越冬しました
1/27、2/5、3/9 阿部則雄さん
(船橋市在住)
- 2/9 石井信義さん(菅野在住)
花井政章・勢津子さん
(鎌ヶ谷市在住)
- 2/12 須藤治(自然博物館)
- ・今冬もオオタカが飛来しました
3/19 須藤治
- ・ホソミオツネトンボ出現
3/23 阿部則雄さん
- ・イタチが湿地を駆け抜けました
3/5 金子謙一(自然博物館)

◆南大野より

- ・チョウゲンボウが飛来しました
2/24 高畑道由さん(南大野在住)
- ・タゲリが越冬しました
1/31、2/1・3・4・7 高畑道由さん

◆こざと公園より

- ・今年もカモ(ハシビロガモ、キンクロハジロ)が飛来しました
2/3 高畑道由さん

◆柏井雑木林より

- ・コゲラが枯れ木をつついて、ガーンという音を響かせていました
3/7 金子謙一

◆小塚山市民の森より

- ・コガラが、コゲラ・ヒガラ・シジュウカラの群れに混じていました
3/13 田中利彦さん(船橋市在住)

◆じゅん菜池公園より

- ・カワセミを見ました
1/18 秋元久枝さん(国府台在住)

◆菅野より

- ・ウグイスがさえずりました
3/5 山崎剛介さん(菅野在住)
- 3/8 町山万喜雄さん(菅野在住)

◆八幡より

- ・ウグイスがさえずりました
2/25 小石禮子さん(本北方在住)
- 3/7 稲田重子さん(本北方在住)

◆行徳駅前より

- ・ウグイスがさえずりました
3/7 作田修二(自然博物館)

◆大野町より

- ・ウグイスがさえずりました
3/16 作田修二

◆新田より

- ・メジロが庭の寒椿を訪れます
2/27 安藤ゆきのさん(新田在住)

◆江戸川放水路より

- ・ヒバリがさえずりました
2/22 金子謙一

※ウグイスのさえずりの便りが、各地から届くようになりました。多くの情報をお待ちしております。

※その他、身近な自然のことを知らせてください。日付けと場所を書いて博物館まで郵送願います。

やってみよう! みてもよう

うきぼち
かんたん自然
の巻



おうちに
うきぼち
などがあったら、



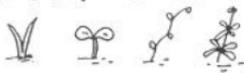
(底に穴をあけてね)

お庭や空き地の土を少し入れて
みよう。



日あたりの
良い苔屋の中に
おいて、草が生えたら
水をやる。

いろいろな草が生えてくるよ!



さらに水をかけて育てよう!
花が咲いたらおしまい。

押し花にしてノートにはって
みよう。



いつかまた生えたら
もう一度やってみよう。

☆☆☆☆ 自然博物館の行事案内 ☆☆☆☆

*自然観察会 定員 各回 先着20名

内容	日時	場所	受付開始日
シギ・チドリの観察	4月25日(日) 午前9時30分～11時30分	江戸川放水路	4月15日
水辺の動植物	5月23日(日) 午前9時30分～11時30分	自然観察園	5月1日
トビハゼと 干潟の生物	6月20日(日) 午前9時30分～11時30分	江戸川放水路	6月1日

*自然とあそぼう 定員 各回 小学生と保護者 先着20組

内容	日時	場所	受付開始日
春の花であそぼう おしばなづくり	5月8日(土) 午前10時～12時	自然博物館	4月15日
さわってみれば スペースザラザラゲーム	6月12日(土) 午前10時～12時	自然博物館	5月15日

申込み方法

往復はがきに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご記入のうえ、
申込期間内に、自然博物館までお送り下さい。

市立市川自然博物館だより
第5巻 2号 (通巻第25号)
発行日/ 平成5年4月1日(偶数月発行)
編集・発行/ 市立市川自然博物館
〒272 千葉県市川市大町 284番地
☎ 0473(39)0477